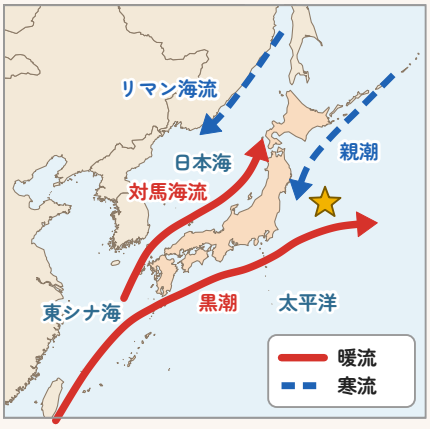
図解でつかむ　食料生産

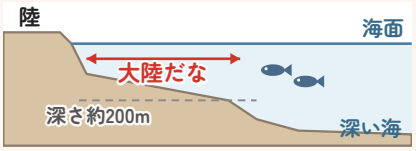
図解　**日本のまわりはよい漁場。とる漁業は減り、育てる漁業が大切に。食料自給率は37%で、多くを輸入にたよっている。**

ステップ1「水産業のさかんな地域」・ステップ2「これからの食料生産とわたしたち」のまとめ

1 日本のまわりの海と漁場



・**暖流**（だんりゅう）：南から流れてくる あたたかい海流（黒潮（くろしお）・対馬海流（つしま））
・**寒流**：北から流れてくる つめたい海流（親潮（おやしお）・リマン海流）
・**潮目**（しおめ）：暖流と寒流がぶつかる所。プランクトンが多く、魚が集まる。三陸海岸の沖など。
・**大陸だな**：深さ200mくらいまでの浅い海底。魚のえさが多い。



2 漁業の種類

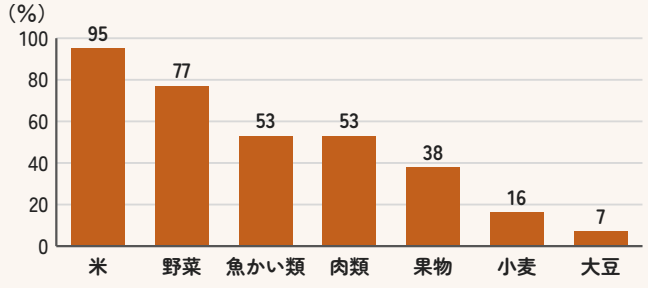
とる漁業			育てる漁業	
遠洋漁業	沖合漁業	沿岸（えんがん）漁業	養しょく業	さいばい漁業
遠くの海で 数か月〜1年	日本の近くの沖で 数日がかり	岸の近くで 日帰り	いけすで大きく 育てて出荷	ちぎょを放流し 大きくなってからとる

・2024年は**沖合漁業**がいちばん多い。**遠洋漁業**は、各国の200海里の制限や燃料のねだん上がりで大きく減った。

3 魚がとどくまで

港で水あげ → せり → 箱づめ・氷で冷やす → 保冷トラック（高速道路） → 店にならぶ

4 食料自給率



資料：農林水産省「食料需給表」（2025年度・概算）

・**食料自給率**：国内で食べる食料のうち、国内でつくった割合（わりあい）。日本は**37%**（2025年度・カロリーベース）。
・米は95%でほぼ国内産。**小麦16%・大豆7%**は、ほとんどを輸入。
・米を食べる量が減り、肉・牛乳・油を多く食べるようになって、自給率が下がった。
・農業で働く人は減り、65才以上が約7割（2025年）。

5 これからの食料生産

地産地消
地元でとれた物を地元で食べる。新鮮で、運ぶ燃料も少ない。

トレーサビリティ
いつ・どこで・だれが育てたかを調べられるしくみ。安心につながる。

食品ロス
食べられるのにすてる食品。1年で約464万トン（2023年度）。

おわったら ○を つけよう　◯ できた！　◯ もういちど！

図解でつかむ　工業生産

図解　**工業は太平洋ベルトに集まり、中京工業地帯が日本一。原料を輸入して製品を輸出する貿易と、中小工場の技術が日本の工業を支えている。**

ステップ3〜6「工業生産」のまとめ

1 工業の種類

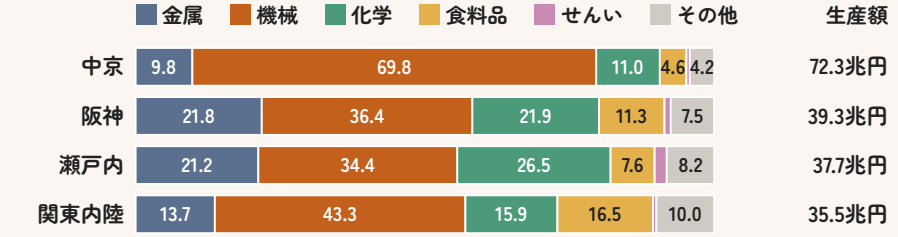
機械工業	金属工業	化学工業	食料品工業	せんい工業
自動車・テレビ	鉄鋼（てっこう）・レール	薬・プラスチック	かんづめ・パン	服・糸

機械・金属・化学をまとめて**重化学工業**。今は**機械工業**がいちばん多く（約46%）、昔さかんだったせんい工業は1.1%（2024年）。

2 工業のさかんな地域

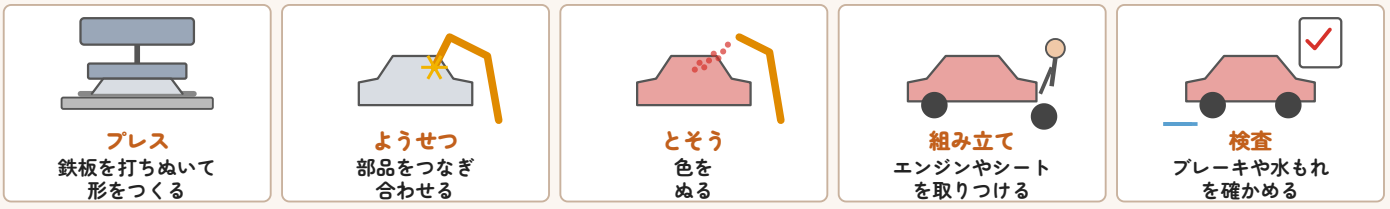


・**太平洋ベルト**：関東から九州北部まで、海ぞいに工業地帯・地域が帯のように続く。
・海ぞいに多いわけ：原料や燃料を船で輸入し、製品を輸出しやすい。うめ立て地で広い土地がとれる。
・高速道路が整って、**関東内陸**などの内陸にも工業地域が広がった。



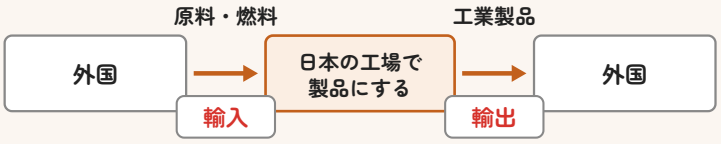
2024年。資料：経済産業省「経済構造実態調査」より作成。化学は石油製品などをふくむ。

3 自動車ができるまで



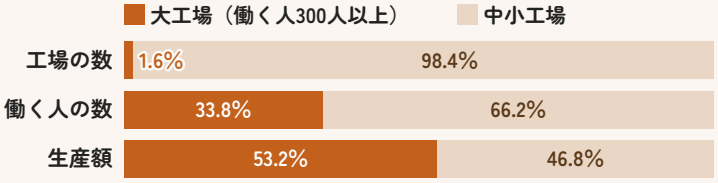
・**関連工場**が部品をつくり、「必要なときに、必要な数だけ」組み立て工場にとどける。・海外生産は国内生産の約2倍（2025年）。

4 運輸と貿易



・**加工貿易**：原料を輸入し、製品にして輸出。
・輸出も輸入も1位は**機械類**。原油は9割以上を**中東**から。
・国内の荷物は**トラック**が中心、重い物は船で運ぶ。

5 大工場と中小工場・伝統工業



・中小工場は工場の数の約98%。高い技術で大工場を支える。
・伝統的工芸品は後つぎ不足が課題。新しい製品づくりや海外への販売にとり組む。

おわったら ○を つけよう　◯ できた！　◯ もういちど！